

## 2. 全数把握対象感染症患者報告状況

### (1) 全数把握対象感染症の過去5年間の届出状況

	疾 患 名	2015年 (平成27年)	2016年 (平成28年)	2017年 (平成29年)	2018年 (平成30年)	2019年 (令和元年)
二類	結核	150	156	147	143	136
三類	細菌性赤痢					1
	腸管出血性大腸菌感染症	10	17	13	11	14
	パラチフス				1	
四類	A型肝炎	1	3			
	重症熱性血小板減少症候群	3	8	4	1	9
	つつが虫病	1	2	2	1	
	デング熱		1			1
	日本紅斑熱	6	6	10	4	12
	マラリア					1
	野兔病	1				
	ライム病		1			
五類	レジオネラ症	5	11	15	14	13
	アメーバ赤痢	5	4	3	3	7
	ウイルス性肝炎（E型、A型を除く）	1	1	2	2	2
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	4	5	3	8	11
	急性弛緩性麻痺（急性白髄炎を除く） <sup>1)</sup>				1	
	急性脳炎	2	3	1	4	2
	クリプトスポリジウム症	1				
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1		1	2	3
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	1		3	4
	後天性免疫不全症候群	8	6	5	9	4
	ジアルジア症	1				
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1	2	2	1	4
	侵襲性肺炎球菌感染症	7	4	6	9	11
	水痘（入院例）	1		2	6	5
	梅毒	2	11	14	30	30
	播種性クリプトコックス症	1			2	3
	破傷風		2	3	4	
	百日咳 <sup>2)</sup>				31	80
風しん	1			3	2	
麻しん	1			1	1	

1) 平成30年5月1日（2018）より全数把握対象感染症へ指定された。

2) 平成30年1月1日（2018）より全数把握対象感染症へ指定された。

(2) 各疾病の届出状況

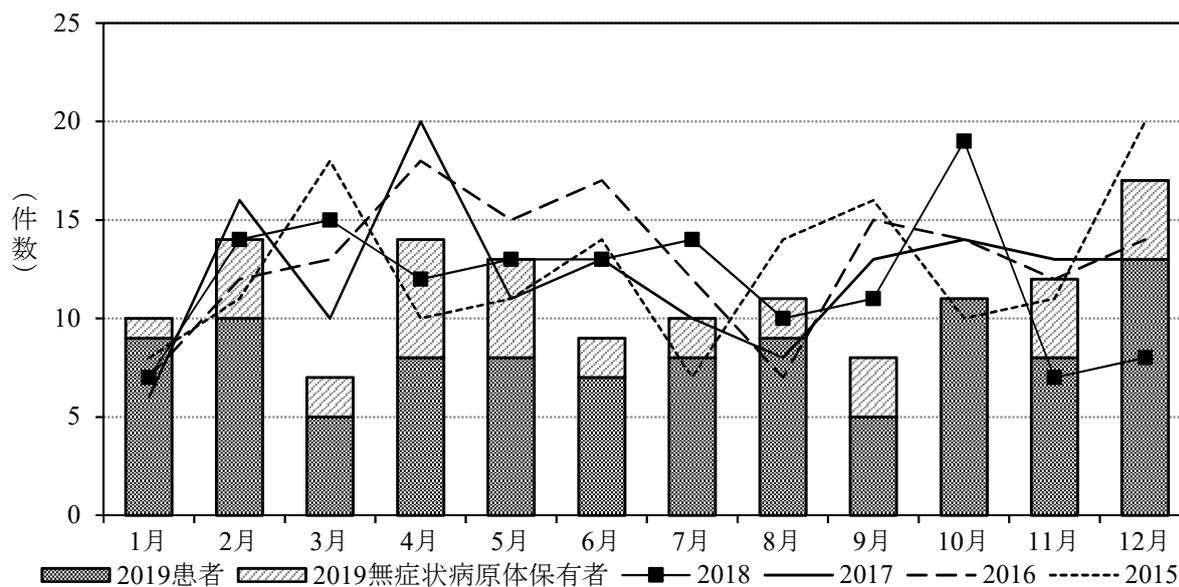
《一類感染症》

一類感染症の届出はなかった。

《二類感染症》

① 結核

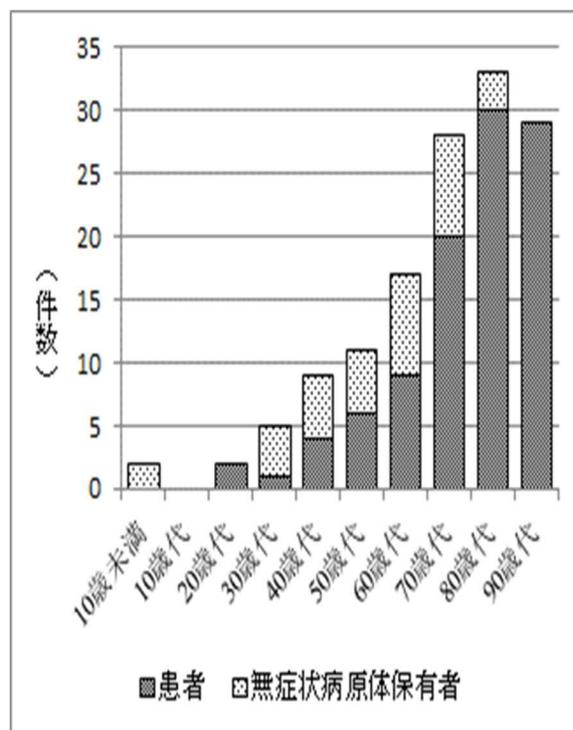
【結核の月別届出数】



【年齢・性別構成】

	男	女	計
10歳未満	1	1	2
10歳代	0	0	0
20歳代	1	1	2
30歳代	2	3	5
40歳代	3	6	9
50歳代	4	7	11
60歳代	12	5	17
70歳代	19	9	28
80歳代	17	16	33
90歳以上	13	16	29
計	72	64	136

【年齢・症状別届出数】



2019年の年間届出数は136件であった。過去5年間の年間届出数は、毎年約150件前後であり、2016年以降は、漸減傾向にある。

月別の届出数では、12月が17件とやや多かったものの、季節的な特徴はみられなかった。

診断の類型では、「患者」が101件（内訳：肺結核68件、その他の結核30件、肺結核及びその他の結核3件）と多く、「無症状病原体保有者」は35件であった。

年齢別にみると、60歳を超え年齢が高くなるにつれて増加し、60歳代（17件）、70歳代（28件）、80歳代（33件）、90歳以上（29件）と、60歳以上の届出が合計107件と全体の約80%を占めた。

性別では、男性72件、女性64件とやや男性が多かった。

年齢別に症状を比較した場合、50歳以上では「患者」が約80%と大部分を占めたのに対し、50歳未満では「無症状病原体保有者」の割合が約60%、「患者」の割合が約40%であり、若年層では「無症状病原体保有者」の割合が高かった。

職業別では、医療・介護などの施設関係者や建設業、調理師等、人と接する機会が多く集団感染に繋がる環境にある者も見られたことより、感染拡大防止のため施設関係者等に対し感染予防啓発、施設内感染対策の徹底が不可欠と考えられた。

### 《三類感染症》

#### ② 細菌性赤痢

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
10月	男	70歳代	下痢、腹痛	経口感染	海外

2019年の年間届出数は1件であった。過去5年間の届出はなかった。

年齢及び性別は70歳代の男性、感染地はモロッコで生野菜の喫食による経口感染と推定された。

#### ③ 腸管出血性大腸菌感染症

2019年の年間届出数は14件で、前年（11件）からやや増加した。過去5年間の年間届出数は、毎年10件台で推移している。

一般に本疾患は夏から秋に多いとされる。月別の届出数では、7月と10月に5件ずつと全体の約70%を占めた。

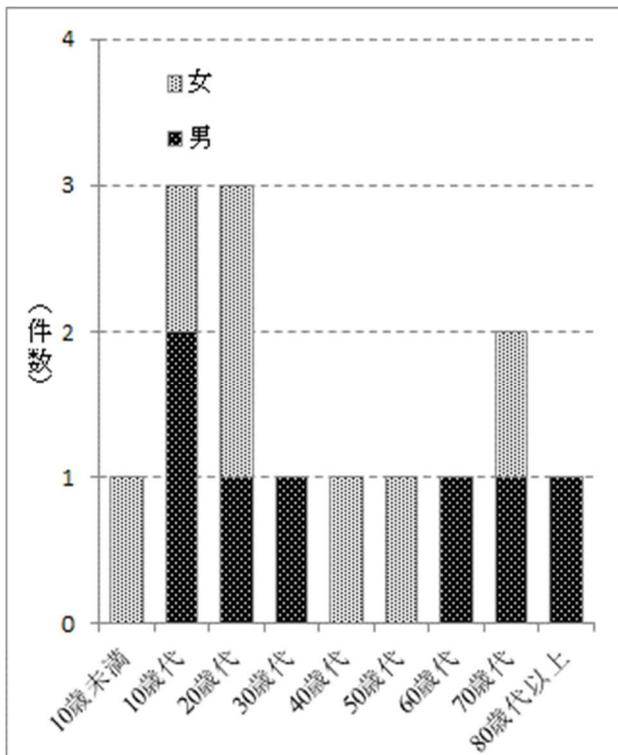
年齢別では、10歳代から80歳代まで全年齢層で報告され、性別では、男性7件、女性7件と同数であった。

診断の類型では「患者」が11件、「無症状病原体保有者」3件と「患者」が多く報告され、症状は腹痛、水様性下痢、血便、嘔吐など複数の症状を訴えていた。血清型別では、本疾患の多くを占めるO157が13件、O26が1件報告された。

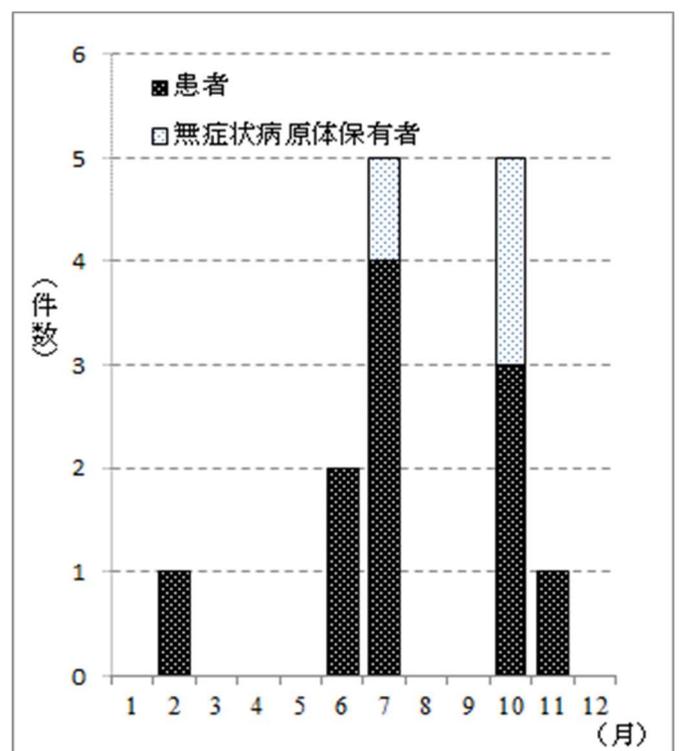
「患者」報告例の感染経路や感染源は、肉の喫食が3件、生肉喫食2件、不明6件でいずれも国内にて感染したと推定された。また、「無症状病原体保有者」3件のうち2件は生レバーなど生肉を喫食した「患者」との接触者検診により報告され、同じく生肉を喫食したことによる経口感染と推定された。

診断月	性別	年齢	症状	型別	推定感染地域
2月	男	30歳代	腹痛、血便	O157 (VT1VT2)	国内
6月	女	10歳未満	腹痛、水様性下痢、血便、発熱	O157 (VT1VT2)	国内
6月	男	70歳代	泥状便、嘔気	O157 (VT1VT2)	国内
7月	男	10歳代	水様性下痢、嘔吐	O157 (VT1VT2)	国内
7月	女	40歳代	無症状病原体保有者	O26 (VT1)	国内
7月	女	10歳代	腹痛、水様性下痢、血便、嘔吐	O157 (VT1VT2)	国内
7月	女	20歳代	腹痛、水様性下痢、血便	O157 (VT1VT2)	国内
7月	女	50歳代	腹痛	O157 (VT1VT2)	国内
10月	女	20歳代	腹痛、水様性下痢	O157 (VT2)	国内
10月	男	20歳代	腹痛、水様性下痢、血便、嘔吐、 発熱	O157 (VT1VT2)	国内
10月	男	10歳代	無症状病原体保有者	O157 (VT2)	国内
10月	男	60歳代	無症状病原体保有者	O157 (VT1VT2)	国内
10月	男	80歳代	腹痛、血便、発熱	O157 (VT1VT2)	国内
11月	女	70歳代	腹痛、水様性下痢、血便、発熱	O157 (VT1VT2)	国内

【年齢・性別届出数】



【月別・症状別届出数】



《四類感染症》

④ 重症熱性血小板減少症候群

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
3月	男	80歳代	発熱、神経症状、下痢、全身倦怠感、血小板減少、白血球減少、腰痛	マダニ等からの感染	国内
4月	男	70歳代	発熱、頭痛、嘔吐、食欲不振	マダニ等からの感染	国内
5月	男	70歳代	発熱、神経症状、腹痛、下痢、食欲不振、全身倦怠感、血小板減少、白血球減少、リンパ節腫脹、刺し口、嘔気	マダニ等からの感染	国内
6月	女	80歳代	発熱、下痢、食欲不振、全身倦怠感、血小板減少、白血球減少	マダニ等からの感染	国内
6月	女	70歳代	発熱、下痢、嘔吐、食欲不振、全身倦怠感、血小板減少、白血球減少	マダニ等からの感染	国内
7月	女	50歳代	発熱、下痢、食欲不振、血小板減少、白血球減少、出血傾向	マダニ等からの感染	国内
8月	男	80歳代	発熱、頭痛、全身倦怠感、血小板減少、白血球減少	感染動物等からの感染	国内
9月	女	80歳代	発熱、神経症状、下痢、食欲不振、血小板減少、白血球減少、刺し口	マダニ等からの感染	国内
10月	女	80歳代	発熱、食欲不振、全身倦怠感、血小板減少、白血球減少、リンパ節腫脹	マダニ等からの感染	国内

2019年の年間届出数は9件で、前年（1件）より増加した。2013（平成25）年3月4日より四類全数把握対象感染症に指定されて以来の過去最高の届出数となった。

届出月は3～10月とマダニの活動時期に一致する春から秋に集中し、年齢及び性別は50～80歳代の男性4件、女性5件であった。

感染経路は、多くが農作業などの野外活動時にマダニ等に刺咬され感染したと推定されたが、ウイルスに感染した飼育動物からの感染が推定された例もみられた。

徳島県では本疾患をはじめ、つつが虫病、日本紅斑熱など、原因微生物を保有するマダニ等の刺咬による感染症が毎年のように報告されている。重症化例も見られることより登山、林業、農作業など野外活動機会の多い中高年者を中心に、ダニ・昆虫媒介性疾患に対する予防対策の啓発が重要と考えられた。

⑤ デング熱

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
11月	男	30歳代	2日以上続く発熱、発疹、血小板減少、白血球減少	動物・蚊・昆虫からの感染	国外

2019年の年間届出数は1件であった。届出月は11月で、年齢及び性別は、30歳代の男性、ベトナムに滞在中、媒介蚊に刺されたことにより感染したものと推定された。

過去5年間では、2016年に1件報告され、海外旅行中に感染したと推定されている。

デングウイルスを媒介するヒトスジシマカは我が国にも広く分布し夏期を中心に活発に活動する。2014年には約70年ぶりに東京都を中心として国内流行が発生した。また、本年は国内感染例が3件発生している。マダニを含め昆虫媒介性疾患は刺されないことが第一の感染予防策であり、広く啓発することが重要と考えられた。

⑥ 日本紅斑熱

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
5月	男	90歳代	発熱、頭痛、発疹、肝機能異常	マダニ等からの感染	国内
7月	女	70歳代	発熱、刺し口、発疹	マダニ等からの感染	国内
7月	男	80歳代	発熱、刺し口、発疹、肝機能異常	マダニ等からの感染	国内
8月	女	70歳代	発熱、発疹、DIC、肝機能異常	マダニ等からの感染	国内
9月	女	60歳代	発熱、発疹、肝機能異常	マダニ等からの感染	国内
9月	女	80歳代	発熱、刺し口、発疹、肝機能異常	不明	国内
9月	男	70歳代	発熱、頭痛、発疹、DIC、肝機能異常	マダニ等からの感染	国内
10月	女	70歳代	発熱、発疹、肝機能異常、高CK 腎機能異常	マダニ等からの感染	国内
11月	男	70歳代	発熱、発疹、肝機能異常	不明	国内
11月	男	80歳代	発熱、発疹、DIC、肝機能異常、腎機 能障害	マダニ等からの感染	国内
11月	女	60歳代	発熱、刺し口、発疹	マダニ等からの感染	国内
11月	男	80歳代	発熱、発疹、肝機能異常	マダニ等からの感染	国内

2019年の年間届出数は12件で、前年（4件）より増加した。過去5年間における年間届出数は4～13件と、年毎で差が大きい。

届出月は5～11月と、マダニの活動時期と一致する春から秋に集中していた。年齢は60～90歳代、性別は男性が6件、女性が6件であった。

感染経路は、重症熱性血小板減少症候群と同様にレジャーや農作業等の野外活動において、マダニに刺咬されたと推定されている。

⑦ マラリア

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
8月	男	10歳代	発熱、悪寒、頭痛、関節痛	動物・蚊・昆虫 等からの感染	国外

2019年の年間届出数は1件で、過去5年間では報告はなく、2011年に1件報告されている。

届出月は8月で、年齢及び性別は、10歳代の男性、ナイジェリアにて感染したものと推定された。

⑧ レジオネラ症

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
1月	男	70歳代	発熱、咳嗽、肺炎	不明	国内
1月	男	80歳代	発熱、咳嗽、肺炎	不明	国内
2月	男	80歳代	発熱、呼吸困難、肺炎	水系感染	国内
3月	男	80歳代	発熱、呼吸困難、意識障害、肺炎	水系感染	国内
3月	男	70歳代	発熱、咳嗽	水系感染	国内
7月	男	70歳代	発熱、咳嗽、呼吸困難、肺炎	不明	国内
8月	男	50歳代	発熱、肺炎	不明	不明
8月	男	50歳代	発熱、肺炎	不明	不明
9月	女	70歳代	発熱、呼吸困難、意識障害、肺炎 多臓器不全	不明	国内
9月	女	70歳代	発熱	水系感染	国内
10月	女	90歳代	発熱、咳嗽、肺炎	不明	不明
12月	男	80歳代	発熱、咳嗽、意識障害	水系感染	国内
12月	男	80歳代	発熱、肺炎	水系感染	国内

2019年の年間届出数は13件であった。過去の年間届出数の推移をみると、2014年以前は毎年1～3件の報告数で推移していたが、2016年以降は11～15件と増加している。年間を通して発生し、季節的な特徴は見られなかった。

年齢別では50～90歳代まで幅広い年齢層から報告され、性別は男性10件、女性3件であった。病型は12件が「肺炎型」で、1件が「ポンティアック熱型」であった。

推定感染経路は水系感染が6件、不明7件、感染地域は国内10件、不明3件であった。

《五類感染症》

⑨ アメーバ赤痢

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
1月	男	40歳代	下痢、発熱、肝膿瘍	性的接触	国内
3月	男	70歳代	下痢、粘血便、大腸粘膜異常所見	不明	国内
4月	男	40歳代	粘血便	不明	国内
6月	男	40歳代	下痢	不明	国内
8月	男	60歳代	症状なし	不明	不明
8月	男	70歳代	肝膿瘍	不明	国内
11月	男	60歳代	下痢、粘血便、腹痛、大腸粘膜異常所見	不明	国内

2019年の年間届出数は7件で、過去5年間では毎年3～7件報告されている。

年齢は40～70歳代、性別は全例男性であった。病型は「腸管アメーバ症」が5件、「腸管及び腸管外アメーバ症」が2件であった。推定感染経路は性的接触1件、不明6件、感染地域は国内6件、不明1件と推定された。

⑩ ウイルス性肝炎（E型、A型を除く）

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
7月	男	30歳代	肝機能異常	同性間性的接触	国内
8月	男	5歳未満	全身倦怠感、嘔吐、褐色尿、発熱、 肝機能異常、黄疸	不明	国内

2019年の年間届出数は2件で、過去5年間では毎年1～2件報告されている。

本疾患は7月と8月に1件ずつ届出があり、年齢及び性別は、30歳代と5歳未満の男性であった。

病型は「B型肝炎」と「サイトメガロウイルス」、いずれも国内にて感染したと推定された。

⑪ カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染原因・経路	推定感染地域
2月	女	80歳代	腹膜炎	不明	国内
2月	男	40歳代	髄膜炎	手術部位感染	国内
7月	男	70歳代	敗血症、胆嚢炎	以前からの保菌 医療器具関連感染	国内
9月	男	60歳代	敗血症、胆管炎	以前からの保菌	国外
9月	男	60歳代	尿路感染症	不明	国内
10月	男	60歳代	肺炎	不明	国内
11月	女	70歳代	菌血症	不明	国内
11月	男	70歳代	その他（腹腔胸腔穿通による感染）	不明	国内
11月	男	70歳代	胆管炎	不明	国内
12月	女	80歳代	尿路感染症	不明	国内
12月	男	50歳代	菌血症	不明	国内

2019年の年間届出数は11件であった。2014（平成26）年9月19日に五類全数把握対象感染症として指定されて以降最も多い報告数となった。

年齢は40～80歳代と幅広く、性別は男性8件、女性3件であった。推定感染経路は手術部位や、医療器具を介しての感染が2件、以前からの保菌が2件であり、感染地域は国内10件、国外で1件感染したと推定された。

⑫ 急性脳炎

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
6月	男	5歳未満	発熱、痙攣、意識障害	不明	不明
11月	女	80歳代	発熱、項部硬直、意識障害	不明	国内

2019年の年間届出数は2件であった。

年齢は5歳未満と80歳代で、性別は男性1件、女性1件であった。

病型は、「単純ヘルペスウイルス」が1件、不明が1件、感染地域は1件が国内と推定されるが、もう1件は不明であった。

⑬ クロイツフェルト・ヤコブ病

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
3月	男	80歳代	進行性認知症、ミオクロオヌス 錐体路症状、錐体外路症状、記憶障害 精神・知能障害、筋強剛	不明	不明
10月	女	60歳代	進行性認知症、ミオクロオヌス 錐体路症状、錐体外路症状、記憶障害 精神・知能障害、筋強剛	不明	不明
11月	男	70歳代	進行性認知症、ミオクロオヌス 無動性無言状態、記憶障害	不明	不明

2019年の年間届出数は3件で、過去5年間では増加傾向となっている。

年齢及び性別は、60～80歳代で、男性は2件、女性1件であった。

病型はいずれも「孤発性プリオン病」で、感染経路・地域は不明であった。

⑭ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
1月	男	70歳代	ショック、腎不全、DIC、軟部組織炎	不明	国内
7月	女	70歳代	ショック、腎不全、DIC、中枢神経症状	創傷感染	国内
7月	男	60歳代	ショック、腎不全、急性呼吸窮迫症候群 DIC、軟部組織炎	創傷感染	国内
11月	女	60歳代	ショック、腎不全、軟部組織炎	創傷感染	国内

2019年の年間届出数は4件で、過去5年間では一番多い届出数となった。

年齢は60～70歳代で、性別は男性2件、女性2件であった。

推定感染経路は、創傷感染3件、不明1件、感染地域はいずれも国内と推定された。

⑮ 後天性免疫不全症候群

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
3月	男	30歳代	無症状病原体保有者	同性間性的接触	国内及び国外
6月	男	50歳代	無症状病原体保有者	異性間及び同性間 性的接触	国内
10月	女	20歳代	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国内
10月	女	40歳代	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国外

2019年の年間届出数は4件であった。過去5年間では毎年4～9件報告されている。

年齢は20～50歳代、性別は男性2件、女性2件であった。病型は全て「無症候性キャリア」であった。感染経路は、いずれも同性または異性間での性的接触で、国内での感染が2件、国外での感染が1件、国内及び国外での感染が1件と推定された。

現在、保健所等を中心に無料検査・相談が実施されている。本年、届出があった4件のうち2件は、県内保健所で実施された無料検査にて発見され、地域連携医療機関での診断、報告につながった。

今後もハイリスク層や発生報告数の多い20～50歳代を中心とした幅広い年齢層に対し、より積極的

な普及啓発を推進し、HIV 感染の早期発見による早期治療と、感染拡大の抑制に努めることが重要と考えられた。

⑩ 侵襲性インフルエンザ菌感染症

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
1 月	女	80 歳代	肺炎	飛沫・飛沫核感染	国内
3 月	女	80 歳代	発熱、肺炎、菌血症	肺炎からの血流感染	国内
6 月	女	60 歳代	発熱、肺炎、菌血症、多臓器不全	不明	国内
9 月	男	60 歳代	菌血症	不明	国内

2019 年の年間届出数は 4 件で、過去 5 年間の届出数は 1~2 件で推移しており、過去 5 年間で一番多い届出数となった。

年齢及び性別は、60~80 歳代の男性 1 件、女性 3 件であった。いずれも国内にて感染したと推定された。

⑪ 侵襲性肺炎球菌感染症

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
1 月	男	80 歳代	肺炎	不明	国内
1 月	女	5 歳未満	発熱、嘔吐、痙攣、肺炎、菌血症	不明	国内
1 月	男	70 歳代	頭痛、発熱、菌血症	接触感染	国内
1 月	男	60 歳代	発熱、意識障害、肺炎、菌血症	飛沫・飛沫核感染	国内
9 月	女	5 歳未満	菌血症	不明	国内
11 月	男	80 歳代	発熱、肺炎	不明	国内
11 月	女	60 歳代	発熱、肺炎、菌血症	不明	国内
11 月	男	80 歳代	発熱、全身倦怠感、肺炎、菌血症	不明	国内
12 月	男	5 歳未満	発熱、菌血症	不明	国内
12 月	女	50 歳代	頭痛、発熱、項部硬直	不明	国内
12 月	男	80 歳代	発熱、全身倦怠感	飛沫・飛沫核感染	国内

2019 年の年間届出数は 11 件で、過去 5 年間では毎年 4~9 件報告されている。

年齢は 5 歳未満 3 件と 50~80 歳代 8 件、性別は男性 7 件、女性 4 件であった。感染経路は、飛沫・飛沫核感染が 2 件、接触感染が 1 件、不明が 8 件であり、いずれも国内で感染したと推定された。

⑫ 水痘（入院例）

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
6 月	男	40 歳代	発熱、発疹	不明	国内
7 月	女	10 歳代	発熱、発疹	飛沫・飛沫核感染	国内
7 月	女	20 歳代	発熱、発疹	飛沫・飛沫核感染	国内
9 月	女	20 歳代	発熱、発疹	飛沫・飛沫核感染	国内
11 月	男	10 歳未満	発疹	不明	国内

2019年の年間届出数は5件で、2014（平成26）年9月19日より五類全数把握対象感染症に指定されて以降、2015年に1件、2017年に2件、2018年に6件報告されている。

年齢及び性別は、10歳未満が1件、10歳代が1件、20歳代が2件、40歳代が1件であり、性別は、男性が2件、女性が3件であった。いずれも国内で感染したと推定された。

⑱ 梅毒

診断月	性別	年齢	症状	推定感染経路	推定感染地域
1月	女	30歳代	初期硬結（性器）、鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）	異性間性的接触	国内
2月	男	20歳代	初期硬結（性器）、鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）	性的接触	国内
2月	男	40歳代	丘疹性梅毒疹	異性間性的接触	国内
2月	男	50歳代	無症状病原体保有者	性的接触	不明
2月	男	20歳代	硬性下疳（肛門）、梅毒性バラ疹	異性間性的接触	国内
3月	女	30歳代	梅毒性バラ疹、丘疹性梅毒疹	異性間性的接触	国内
3月	男	30歳代	硬性下疳（性器）	性的接触	国内
4月	男	30歳代	初期硬結（性器）、梅毒性バラ疹 丘疹性梅毒疹	不明	不明
5月	女	50歳代	梅毒性バラ疹	異性間性的接触	国内
5月	男	20歳代	梅毒性バラ疹、丘疹性梅毒疹	同性間性的接触	国内
7月	男	20歳代	初期硬結（性器）、硬性下疳（性器）	異性間性的接触	国内
7月	女	20歳代	無症状病原体保有者	不明	不明
7月	男	80歳代	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国内
7月	男	30歳代	初期硬結（性器、肛門）、鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）	同性間性的接触	国内
7月	男	30歳代	硬性下疳（性器）、鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）	性的接触	国内
8月	女	80歳代	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国内
8月	男	30歳代	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国内
8月	女	20歳代	丘疹性梅毒疹、扁平コンジローマ	異性間性的接触	不明
9月	女	20歳代	梅毒性バラ疹、丘疹性梅毒疹	異性間性的接触	国内
9月	男	30歳代	初期硬結（性器）、硬性下疳（性器）	異性間性的接触	国内
9月	男	40歳代	梅毒性バラ疹	不明	国内
9月	女	30歳代	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国内
10月	男	20歳代	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国内
10月	女	20歳代	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国内
10月	女	80歳代	無症状病原体保有者	不明	不明
11月	男	20歳代	初期硬結（性器、肛門）	異性間性的接触	国内

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
11月	男	50歳代	硬性下疳（性器）、鼠径部リンパ節腫脹（無痛性）	異性間性的接触	国内
11月	男	50歳代	初期硬結（性器）	性的接触	国内
11月	男	30歳代	初期硬結（性器）	不明	不明
12月	男	20歳代	梅毒性バラ疹	不明	不明

2019年の年間届出数は30件であった。過去の年間届出数推移では、2015年以前は毎年2～3件の届出数で推移していたが、2016年以降11～30件と増加している。

年齢別では、20～30歳代で21件、40～80歳代で9件と若年層に多く、性別では男性20件、女性10件と男性が多かった。感染地域は、国内が23件、不明が7件であった。

現在、我が国では若年層を中心に梅毒患者の増加が大きな問題となっている。

HIVと同様に、発生報告の多い10～40歳代を中心に、感染者及びパートナーともに積極的な感染予防啓発の推進が重要と考えられた。

#### ⑳ 播種性クリプトコックス症

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
1月	男	80歳代	頭痛、意識障害	免疫不全	国内
7月	男	70歳代	紅斑、真菌血症	免疫不全	国内
7月	女	70歳代	意識障害、胸部異常陰影、中枢神経系病変	免疫不全	国内

2019年の年間届出数は3件であった。2014（平成26）年9月19日より五類全数把握対象感染症に指定された。過去5年間では2015年に1件、2018年に2件報告されている。

年齢及び性別は、70～80歳代の男性2件、女性1件であった。いずれも免疫不全が原因で、感染地域は国内と推定された。

#### ㉑ 百日咳

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
1月	男	10歳未満	夜間の咳き込み、呼吸苦、嘔吐	学校感染	国内
1月	女	10歳未満	夜間の咳き込み、呼吸苦	学校感染	国内
1月	女	10歳代	夜間の咳き込み	家族内感染	国内
1月	女	10歳未満	夜間の咳き込み、呼吸苦	家族内感染	国内
1月	男	10歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み、嘔吐	不明	国内
1月	女	60歳代	持続する咳	不明	国内
2月	女	10歳代	夜間の咳き込み	学校感染	国内
2月	男	10歳未満	持続する咳	家族内感染	国内
3月	男	10歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	家族内感染	国内
3月	女	10歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	国内
3月	女	50歳代	呼吸苦、スタカート、ウープ、肺炎	不明	国内

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
3月	男	10歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み 白血球数増多	家族内感染	国内
3月	男	10歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	不明
3月	女	30歳代	持続する咳、夜間の咳き込み 呼吸苦	家族内感染	不明
3月	女	10歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み 白血球増多	不明	国内
4月	女	10歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	不明
4月	女	10歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	家族内感染	国内
4月	女	10歳代	夜間の咳き込み、スタックカート ウープ	不明	国内
4月	女	10歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み スタックカート、ウープ	家族内感染	国内
4月	男	10歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	国内
4月	男	10歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	家族内感染	国内
5月	女	10歳未満	夜間の咳き込み	不明	国内
5月	女	10歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	国内
5月	女	10歳未満	夜間の咳き込み	不明	国内
6月	女	10歳未満	持続する咳、スタックカート	不明	不明
6月	女	30歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	国内
6月	女	10歳代	持続する咳、夜間の咳き込み ウープ	不明	国内
6月	男	10歳代	持続する咳	不明	国内
6月	男	10歳代	持続する咳	不明	国内
6月	男	10歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	学校感染	国内
6月	男	10歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	国内
7月	女	40歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	国内
7月	女	10歳未満	持続する咳、スタックカート	家族内感染	国内
7月	男	10歳代	持続する咳	家族内感染	国内
7月	女	10歳未満	持続する咳	学校感染	国内
7月	女	10歳代	持続する咳	学校感染	国内
8月	女	10歳代	夜間の咳き込み	その他	国内
8月	女	40歳代	持続する咳	家族内感染	国内
8月	女	10歳未満	持続する咳	学校感染	国内
8月	男	10歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	学校感染	国内
8月	女	10歳未満	持続する咳	学校感染	国内
8月	男	10歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	国内

診断月	性別	年齢	症状	推定感染経路	推定感染地域
8月	女	10歳未満	持続する咳	学校感染	国内
9月	女	10歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み、嘔吐 白血球増多	不明	国内
9月	女	10歳代	持続する咳、夜間の咳き込み 白血球数増多	家族内感染	国内
9月	女	10歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み、嘔吐	家族内感染	国内
9月	男	10歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	家族内感染	国内
9月	女	10歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	学校感染	国内
9月	女	10歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	学校感染	国内
9月	女	10歳未満	持続する咳	学校感染	国内
9月	女	10歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	家族内感染	国内
9月	男	10歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	家族内感染	国内
9月	男	10歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	学校感染	国内
9月	女	10歳代	持続する咳	学校感染	国内
9月	女	10歳未満	持続する咳	学校感染	国内
9月	女	10歳代	持続する咳	学校感染	国内
9月	男	10歳未満	持続する咳	学校感染	国内
10月	男	10歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み、嘔吐	不明	国内
10月	男	30歳代	咳	家族内感染	国内
10月	男	30歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	不明	不明
10月	男	10歳未満	持続する咳、呼吸苦	学校感染	国内
10月	男	10歳未満	持続する咳	学校感染	国内
10月	女	10歳未満	持続する咳	学校感染	国内
10月	男	10歳代	持続する咳	学校感染	国内
10月	男	10歳未満	持続する咳	家族内感染	国内
10月	女	10歳代	持続する咳	家族内感染	国内
10月	女	10歳未満	持続する咳	学校感染	国内
10月	男	10歳未満	持続する咳、夜間の咳き込み	学校感染	国内
10月	女	10歳代	持続する咳	学校感染	国内
10月	男	10歳代	持続する咳	家族内感染	国内
10月	男	10歳代	持続する咳	学校感染	国内
10月	男	10歳代	持続する咳	学校感染	国内
10月	男	10歳代	持続する咳	学校感染	国内
10月	女	10歳代	持続する咳	学校感染	国内
10月	男	10歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	学校感染	国内
11月	男	10歳代	持続する咳、夜間の咳き込み スタックカート、ウーブ	不明	国内

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
11月	女	10歳代	持続する咳、夜間の咳き込み	学校感染	国内
12月	女	30歳代	持続する咳、夜間の咳き込み 呼吸苦	不明	国内
12月	男	10歳代	持続する咳、夜間の咳き込み、スタッ カート	不明	不明
12月	男	10歳未満	持続する咳	学校感染	国内

百日咳はこれまで小児科定点把握疾患として報告されていたが、2018（平成30）年1月1日より、五類全数把握対象感染症に指定された。2018年の届出数は31件、2019年は80件と大幅に増加している。

年齢は10歳未満40件、10歳代31件、30～60歳代9件と若年層が大半を占めている。性別は、男性35件、女性45件であった。感染経路は、家族内感染が21件、学校関連の感染32件、その他1件、不明が26件であった。感染地域は、国内74件、不明6件であった。

## ② 風しん

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
6月	女	40歳代	発熱、咳、咽頭痛	不明	国内
10月	男	30歳代	発熱、発疹、関節痛、関節炎	不明	国内

2019年の年間届出数は2件であった。過去5年間では、2015年1件、2018年3件報告されている。

年齢及び性別は30～40歳代、男性1件、女性1件であった。感染経路はいずれも不明、感染地域は国内と推定された。

風しんは、抗体価の低い女性が妊娠中に罹患すると、子供に難聴などの重い障害（先天性風しん症候群（CRS））が起こる可能性があるため、今後も迅速な発生報告、流行情報の提供を行う必要がある。

## ③ 麻疹

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
10月	男	20歳代	発熱、咳、発疹	不明	国内

2019年の年間届出数は1件であった。過去5年間では、2015年1件、2018年1報告されている。

年齢及び性別は20歳代男性で、感染経路は不明、国内で感染したと推定された。患者周辺への感染拡大は見られなかった。

麻疹は感染力が非常に強く、空気感染により容易に感染が拡大することから、ワクチン接種による感染予防啓発が重要と考えられる。